

グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰が決定

食品メーカー6社の「FILLINE」プロジェクトが国交大臣表彰

2016年度「グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」が決定した。国土交通省の表彰案件では、国土交通大臣表彰1件、国土交

通省物流審議官表彰1件、グリーン物流パートナーシップ会議特別賞2件が決定した。あわせて経済産業省の表彰案件では経済産業大臣表彰

ヤマト福祉財団

第17回小倉昌男賞の贈呈式を開催



受賞者を囲んでの記念撮影

ヤマト福祉財団(瀬戸 薫理事長)は9日、第17回小倉昌男賞の贈呈式を東京都内で開催し、障がい者就労施設や民間企業の労働現場

球で優勝。盲学校で教員を務め、25年間で全国2200回に上る障がいの人の権利理解に関する講演活動を行い、点字プロジェクトが世界で初めて敷設された岡山市郊外に「点字ブロック世界発祥の碑」も建立した。11年にはモンゴル、15年にはキルギスに視覚障がい者のための職業訓練学校を設立するとともに両国の視覚障がい児に治療費を送って23人の視力を改善させた。

などで、障がいの自立支援に著しく貢献した人の中から毎年2人を選出しているもの。今年も奥進システム社長で全国重度障がい者雇用事業所協会の常務理事を務める奥脇さんと、社会福祉法人岡山ライトハウス理事長の竹内昌彦さんが受賞した。

瀬戸理事長は「奥脇さんは社員に精神障がいの人もいる中、IT企業としてデータベースを作って分析して支援している。とても若く、これからの科学的なITを使った障がい者支援への期待を込めたい」とし、竹内さんにも「幼いころ視力を無くし苦労したが、父母の愛を受けて強く生きてこられた。強く生きる希望と決意を与える講演をし、その謝礼で海外の視覚障がい児にも多大な貢献をしている」と評した。

奥脇さんは経営するIT会社社員の8割が障がいで2割がシングルマザー。精神障がい者の定着のため、障がい者本人が日々の体調や業務状況などを記入して会社や支援機関、家族が情報を共有し、対応するデータベースを作成した。このノウハウを「SPIS」の名称で大阪府や全国精神障害者就労支援事業所連合会などの事業として一般に公開し、50社100人(2016年8月末現在)が活用するほか、福祉事業所向け利用者管理システム「うえるサポ」も開発し、2244人(同11月現在)が利用する。

竹内さんは8歳の時に失明したが、学生時代にはパラリンピック東京大会盲人卓球で優勝。盲学校で教員を務め、25年間で全国2200回に上る障がいの人の権利理解に関する講演活動を行い、点字プロジェクトが世界で初めて敷設された岡山市郊外に「点字ブロック世界発祥の碑」も建立した。11年にはモンゴル、15年にはキルギスに視覚障がい者のための職業訓練学校を設立するとともに両国の視覚障がい児に治療費を送って23人の視力を改善させた。

受賞の挨拶として、奥脇さんは「働きたい人が働ける職場作りを進める中で障がい者雇用が偶然始まった。人と人が気遣い、一緒に生活できる世の中を考えると人達の役に立ちたいと思い、人の温かさを増長できるシステムを作った」と述べ、竹内さんは「目が見えなくなったことと子供が重度障害で亡くなったことはこれ以上ないほどつらかったが、素晴らしい親と教師、仲間が、人生をひっくり返してバラ色にしてくれた。受賞を機に、発達途上国の視覚障がい時に手術費を送る基金を創設し、1000人の子供の目を見えるようにしたい」と力強く語った。

2016年度 グリーン物流パートナーシップ会議 優良事業者表彰

	受賞事業者	受賞功績の概要
国土交通大臣表彰	味の素、カゴメ、日清オイリオグループ、日清フーズ、ハウス食品グループ本社、Mizkan、味の素物流、全国通運、JR貨物、日本通運	食品メーカー6社の共同による、モーダルシフト、共同輸配送等の「ハード面」での改善及び製造・配送・販売の流通過程での食品業界の仕組みやルールの標準化等「ソフト面」での改善を通じ、CO2排出量削減、省労働力化を実現
国土交通省 物流審議官表彰	ジェイアール東日本物流、ジェイアールバス東北、東北鉄道運輸	長距離高速バスと首都圏駅ナカ等のコンビニへの仕分け・配送を担う倉庫・配送センターを組み合わせることにより、複数の商品を必要なだけ定期的に首都圏の各店舗へ安価に納品できる物流の仕組みを構築
グリーン物流 パートナーシップ会議 特別賞① (国交省表彰案件)	神戸モーダルシフト推進協議会、ネスレ日本、全国通運、JR貨物、日本アイ・ピー・エム、ジェナ	配送業者、倉庫業者と連携するためのIoTシステムの導入により、トラック待ち時間の削減を実現。また、31ftコンテナの導入による配送効率向上やオペレーションの効率化により、モーダルシフト輸送の経済優位性を実現
グリーン物流 パートナーシップ会議 特別賞② (国交省表彰案件)	ダイワコーポレーション、沖縄県酒造組合	出荷輸送の共同化、共同物流センター(東京)の設置等、沖縄県酒造組合の加盟メーカーの物流共同化により、CO2排出量の削減や物流の効率化、リードタイム短縮といった物流サービスの高度化を実現
経済産業大臣表彰	イオングローバルSCM、花王、向島運送、福山通運	これまで自社内で実施していたトレーラー中継輸送を、異業種の荷主が連携し実施することで以下の効果を実現。①両社の物流網を活かした効率輸送によるコスト改善とCO2削減 ②長距離トラックドライバーの業務環境改善 ③輸送時のロードファクター改善 ④業務時間帯の見直し、再編成による定時運行、待機時間の低減
経済産業省 商務流通保安審議官 表彰	パスコ、TOTO、中越運送	荷主であるTOTOとその物流事業者への情報化ツール導入による業務効率化を図り、共通 KPI 設定によるCO2排出量削減、走行距離短縮・配車計画作業軽減による労働力生産性向上による業務改善の活性化を推進
グリーン物流 パートナーシップ会議 特別賞 (経産省表彰案件)	人ビジネス機械・情報システム産業協会、日本通運、リコーロジスティクス	顧客先で使用された各メーカーの複写機/複合機、デジタル印刷機の回収拠点を集約し、共同輸配送を図ることでCO2排出量の削減、機器の高い再資源化率の維持を可能とする

をはじめ3件の表彰が決定した。14日に東京・千代田区で開催された第15回「グリーン物流パートナーシップ会議」において表彰式が行われた。受賞事業者と受賞功績は〈表〉の通り。

国土交通大臣表彰は、味の素、カゴメ、日清オイリオグループ、日清フーズ、ハウス食品グループ本社、Mizkan、味の素物流、全国通運、JR貨物、日本通運の「持続可能な食品物流のプラットフォームの構築と運営(FULL INEプロジェクト)」だった。

国土交通省物流審議官表彰は、ジェイアール東日本物流、ジェイアールバス東北、東北鉄道

運輸の「長距離高速バスを利用した貨客混載輸送の取組」だった。

グリーン物流パートナーシップ会議特別賞(国交省表彰案件)は、神戸モーダルシフト推進協議会、によるネスレ日本、全国通運、JR貨物、日本アイ・ピー・エム、ジェナによる「IoTによるトラック待機時間短縮と31ft鉄道コンテナを活用した物流効率化の取組」と、ダイワコーポレーション、沖縄県酒造組合による「泡盛の沖縄県外への出荷物流の共同化の取組」がそれぞれ受賞した。